



「伸びゆく芽」

校長 伊藤 雄一

暖かな春本番を迎えました。谷原小の子供たちを長年見守ってきた校庭の桜が、今年も見事な彩りを添えています。

サトウハチローさんが作詞した本校の校歌には、「わたくしたちの姿をいつも 並ぶ桜が見ています」という一節があります。開校当時、地域の方々が学校と「やわらっ子」の健やかな成長を願い、百本近い桜を植樹されました。その情景と思いが、この歌詞には込められています。

開校 69 周年を迎え、当時の桜の多くは姿を消しましたが、今も残る老木は力強く新しい若芽を吹いています。どんな巨木も、始まりは一粒の種から出た小さな芽でした。

新1年生を迎え、全校児童が揃った「やわらっ子」たちも、日々の生活の中でこの若芽のように一歩ずつ成長していきます。私たちはその「伸びゆく芽」が光を浴びて健やかに育つよう、慈しみ、全力で後押しをしていきます。

保護者・地域の皆様と「パートナー」に

今、私たちを取り巻く社会環境は激しく変化しています。教育の世界においても、学校・地域・社会が総がかりで子供を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。昨年度の保護者の皆様にもご協力いただいた教育活動に関するアンケートを通じ、私はあらためて、保護者の皆様と「パートナー」として手を取り合わなければ解決できない課題が多くあることを痛感いたしました。

挨拶や読書、健康な生活習慣(食・睡眠・運動)といった、人生を豊かにする「根っこ」の部分は、家庭・地域・学校が歩調を合わせてこそ育まれるものです。子供たちの幸せな未来のために、より一層の連携を深めていきたいと考えております。

コミュニティ・スクールの始動と開校 70 周年に向けて

さて、本年度より谷原小学校は「学校運営協議会(CS:コミュニティ・スクール)」導入に向けた練馬区実証校として歩みを進めます。令和 9 年度の本格移行を見据えた一歩です。これまでの「意見を聞く」体制から、保護者や地域の皆様が「当事者(パートナー)」として学校運営に参画する体制へと進みます。

また、来年度には開校 70 周年という大きな節目を迎えます。これらの取り組みを単なる行政的な手続きではなく、子供たちの学びをより豊かに、より活力あるものにするための良い機会ととらえています。

今年度も本校は、目指す学校像を『子供の夢や自信を育む 活力ある学校 ～未来をたくましく切り拓く子供・教師も学び続ける～』と掲げ、一歩ずつ歩みを進めてまいります。

谷原小学校は1年生から6年生まですべて4学級の24学級、くすのき学級6学級の計30学級、特別支援教室「やわらぎルーム」の拠点校としての役割も持ちます。児童数803名、スタッフ112名(業務委託等で本校に携わる職員も含む)という活気あふれる大所帯でスタートします。この大きな組織が生み出すパワーをエネルギーに変え、教職員一同、一丸となって取り組んでまいります。

令和 8 年度、スタートです。